

## SA岩手県立大学研修

1年生のSSH学校設定科目「サイエンス・アクセス(SA)」を深めるため、11月28日(土)にSA岩手県立大学研修を行いました。岩手県立大学で行われている研究にふれ、科学技術が復興に対してどのように貢献できるかを学び、復興のあるべき姿や各自が主体的にどのような貢献ができるのかを考えることが目的です。「防災科学」「情報科学、震災復興」「福祉、医療」の3つの分野の研修を設けていただき、43名の生徒が参加しました。各分野の研修で、防災意識や科学技術に対する興味関心を高め、科学研究に対する理解を深めることができました。

### 「防災科学を通じて郷土をみつめる」

総合政策学部教授 伊藤英之 先生

岩手の自然災害について地質の形成時期や地形の関連について説明を受けた後、イーハトーブ火山局に移動し、岩手山や火山について詳しく学んだ。また、弁当パックを使った岩手山の簡易3D地形モデルの作成や様々な材料を火山灰や溶岩にみたてた噴火実験を通して、岩手山の災害について理解を深めた。また、防災対応カードゲーム「クロスロード」で、震災時の対応についてアクティブラーニングを行った。



### 「震災復興の様子をコンピュータで予測しよう！」

ソフトウェア情報学部准教授 後藤裕介 先生

復興に対してどのような貢献ができるのかをテーマに、仮説、検証を行い科学的に郷土を見つめ直すためにシミュレーションを使う意義を学んだ。また、フローチャートの書き方を学び、プログラミングについて理解を深めた。さらに、人工知能を使ったコンピュータシミュレーションで、被災地の雇用創出と再就職支援の作戦をアクティブラーニングで行うCFW(cash for work)をした。



### 「災害対応および復興に向けたまちづくりについて - ユニバーサルデザインの視点から -」

社会福祉学部教授 狩野徹 先生

ユニバーサルデザイン(すべての人が可能な限り最大限で利用できるようなデザイン)について学び、ユニバーサルデザインの文芸具等を体験した。身体が不自由な体験(障がい者疑似体験、高齢者疑似体験)を行った後、ユニバーサルデザインが住環境に取り入れられる高齢者施設、仮設住宅などの例を紹介された。ユニバーサルデザインという技術は社会生活、福祉につながっており、何が出来て何が出来ないか、そして出来ることを延ばしていくことが福祉には必要であることを学んだ。



### 「褥瘡(床ずれ)発生の不思議発見」

看護学部教授 武田利明 先生

褥瘡の発生原因を、経験や思い込みだけでなく根拠のあるデータで示す必要があるとして、データや標本を示しつつ説明していただいた。

